

■ 第1回 新潟市学校給食懇話会

日時：令和5年2月9日（木）午前10時～

場所：新潟市役所本館議会棟 第2委員会室

【開会の挨拶】

（司 会）

皆様、本日はご多用の中、お集まりいただきましてありがとうございます。

私、全体の進行を務めます保健給食課の田中と申します。よろしくお願いたします。まずは第一回新潟市学校給食懇話会の開始に先立ちまして、資料確認させていただきたいのですが、お手元の一枚目、本日の議事資料。続きまして、両面印刷で資料1の委員等名簿。資料2の開催要綱。あとは資料3として、新潟市の学校給食の現状、給食の課題検討に関する項目のパワーポイントの資料ですね。資料4としてスクールランチに関するアンケート案となっております。不足はございますでしょうか。では続きまして、本会は、本市の附属機関等の会議の公開に関する指針を踏まえまして、原則公開となりますので、後日会議録および議事概要を作成の上、ホームページに掲載いたします。また、会議録作成のために会議を録音させていただいておりますので、ご了承ください。

それでは新潟市学校給食懇話会を開始いたします。次第に沿って進めさせていただきます。まずは池田教育次長よりご挨拶申し上げます。

（池田教育次長）

おはようございます。新潟市教育委員会教育次長の池田と申します。よろしくお願いたします。本日はご多用な中、第一回の学校給食懇話会にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。委員の皆様におかれましては、本市の学校給食の総合的な見直しに、お力添えをいただけることに御礼申し上げます。

昨今コロナ禍において栄養摂取という学校給食の役割が再認識されています。食生活の乱れや食育のさらなる充実が求められるなど、食を取り巻く環境や社会情勢が、大きく変化している中で、見えてきた課題に対応するために、本市の学校給食を総合的に見直すことといたしました。見直しにあたっては栄養、食育、農業などの専門家の皆様、保護者の声、現場の意見なども取り入れながら進めていきたいと考え、今回の学校給食懇話会を設置いたしました。私自身の学校給食との関わりを自分なりに振り返って、私、笹口小学校の時に50数年前に自校給食を食べていました。中学は東新潟中学校で当時は弁当やパンを買って食べたように思います。教員になってからは再び東新潟中学校に勤めた時は依然弁当で、その後、白新中に勤めた時は自校式の中学校の給食でした。そして管理職で勤めた上山中、木戸中ではスクールランチというふうに、私自身給食、そして弁当とすべて体験しているのかなというふうに思っています。時代の移り変わりによって、やはり給食に求められるものが変わるものと変わらないものがきっとあると思います。ぜひ総合的に皆さんからご意見をいただき、より良い新潟市のこれからの新潟市の給食のあり方を探っていききたい。そのための懇話会にしたいと考えています。

子ども達に持続可能なより良い給食を届けるにはどうすればいいのかについて、皆様方の忌憚のないご意見ご助言を賜ればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

【委員自己紹介】

(司 会)

どうもありがとうございました。それでは委員の皆様からの自己紹介をいただきたいと思います。所属とお名前などについてお願いしたいと思いますので、大坪委員から時計回りをお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

(大坪委員)

新潟薬科大学の大坪でございます。わたくしは筑波の食品総合研究所という農水省の研究所におりまして、それから新潟大、今、定年になりまして薬科大にお世話になっております。コメなどの食品の品質・利用が専門でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

(司 会)

ありがとうございます。では佐久間委員お願いできますでしょうか。

(佐久間委員)

私、小中学校 PTA 連合会で副会長をさせていただいております、佐久間沙都美と申します。本業は助産師で、また、保健師としてちょっとお子さんとか保護者の方にもかかわっているところです。住まいが北区なので、子どもは自校式の温かい給食を食べさせていただいているんですけども、私自身も小・中学校とずっと自校給食の学校で育ったので、スクールランチって馴染みがあまりないのですが、また客観的に見た意見を言えたらいいなと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(司 会)

ありがとうございました。では佐藤委員お願いいたします。

(佐藤委員)

新潟市小中学校 PTA 連合会で令和 4 年度から会長を務めております佐藤邦栄と申します。私は鳥屋野中出身でありますので、鳥屋野中時代は弁当。そして娘が毎日スクールランチを食べています。今日は保護者の代表ということで、素晴らしい学校給食制度になるよう務めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(司 会)

ありがとうございました。では村井委員お願いいたします。

(村井委員)

はい、REBIRTH 食育研究所の村井と申します。REBIRTH というのは再生という意味でして、私は、生活習慣病などの診断のための血液検査の導入の仕事から入り、以来、生活習慣病と食の関係をやってきて、食育という形で今、仕事をさせていただいています。その中で子供たちの食に環境も非常に重要だということで、そちらのほうのお手伝いもしています。今回はこういう形で参加させていただくことをとてもうれしく思っています。よろしくをお願いします。

(司 会)

ありがとうございます。では、村山委員お願いいたします。

(村山委員)

新潟県立大学の村山と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。私は新潟市の出身で、沼垂小学校で自校式、東新潟中学校でお弁当でした。私の専門は栄養学、特に公衆栄養と国際栄養です。国際的に見ても日本の学校給食というのは素晴らしいということで、それは栄養の提供面でもしっかり栄養管理されているということと、もう一つは学校給食を用いた食育をしていることです。逆に言うと学校給食を使った食育ができるほど素晴らしい献立だということです。その中で、新潟市の学校給食もさらに充実して良くなっていくようにしたいと思います。私は栄養格差の研究もしているのですが、学校給食が栄養格差を縮小するという効果があることがわかっていますので、ぜひすべての子どものためにいい給食となっていくようにみなさんと頑張っていきたいと思えます。よろしくをお願いいたします。

(司 会)

ありがとうございました。では山崎委員お願いいたします。

(山崎委員)

お世話になります。ベジ・アビオの山崎と申します。私は北区の方でトマトを中心とした野菜の農業法人、生産を行っております。今回は農業の視点からということで懇話会に参加させていただきますので、よろしくをお願いします。私の方は胎内市出身で、小中どちらも給食センターがあって、給食センターから温かい食缶に入った給食が運ばれてきていましたが、高校の時に新潟中央高校の方に行ったので、新潟市内の友達が増えてランチという存在を高校に上がってから初めて知りました。そういうお話もできればと思いますし、農業の生産からの立場ということで、うちでも収穫体験のイベントを開催していて、民間の消費者の方に来ていただいて、トマトってどうやってできているのかとか、生産者が作っていることとか、自分で採ったトマトを、苦手な子が食べておいしいと感じたりとか、そういった食育の観点からも事業を行っておりますので、うちは給食には卸していませんが、そういった観点からお話しできればと思います。よろし

くお願いします。

(司 会)

ありがとうございました。では、続いてオンラインで参加して下さっております、赤松委員、自己紹介お願いできますでしょうか。

(赤松委員)

みなさま初めまして赤松と申します。本日はオンラインで失礼します。

私はお茶の水女子大学で、食物栄養学科の教員として、管理栄養士、そして栄養教諭の養成に携わっております。私自身は新潟とはほとんど関係がないのですが、もうかなり教え子が全国で働いておりまして、新潟県でも活躍しております。文科省の学校給食や食にかかわる事業の委員をこれまで務めていたり、最近で言いますと食に関する指導の手引きの第二次の改訂版の執筆にも携わらせていただきました。このような分野でお役に立ったらと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。二回目は新潟に参りますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

(司 会)

どうもありがとうございました。続きましてですね。オブザーバーの皆様から自己紹介をいただきたいと思ひますので、逸見校長からですね。お願ひいたします。

(逸見オブザーバー)

新潟市立小針中学校の逸見東子と申します。昨年度まで北区で自校給食校でして、今年度はランチ給食の学校になります。どうぞよろしくお願ひいたします。

(司 会)

ありがとうございます。では続きまして、渡邊先生、お願ひいたします。

(渡邊オブザーバー)

新潟市立新潟小学校の栄養教諭 渡邊恵と申します。近くの関屋小学校も兼務をしております。新潟小学校と関屋小学校は自校給食で、調理員さんたちが作った給食を子どもたちが食べています。どうぞよろしくお願ひいたします。

(司 会)

ありがとうございました。では富張先生お願ひいたします。

(富張オブザーバー)

女池小学校の栄養教諭をしております富張玲子と申します。私の学校も自校給食で一つの学校を担当しております。

(司 会)

ありがとうございました。なお本日は、坂井委員およびオブザーバーの本多校長につきまして、所用のため欠席となっております。ご了承ください。続いて事務局の紹介を致します。時間の関係もありますので、一部とさせていただきます。

(池田教育次長)

改めまして教育次長の池田です。給食に関して、また食に関しては議会でもかなりここ数年、質問等、議員や皆さんや市民への関心が高まっているところです。ぜひまた、この今日、皆さんのご挨拶をお聞きして素晴らしいメンバーで、これは必ず良い議論になるなというふうに先ほどまでの話を聞いて実感しました。市民の意識と関心の高いところですが、しっかりと行政事務局として受け止めてよりよいものを考えていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

(司 会)

ありがとうございます。では袖山課長お願ひいたします。

(袖山課長)

はじめまして。保健給食課長の袖山直也と申します。皆様のご意見をいただきまして、よりよい学校給食に向けて頑張っていきたいと思ひております。どうぞお力添えをよろしくお願ひしたいと思ひます。よろしくお願ひします。

(司 会)

ありがとうございます。私は課長補佐の田中と申します。よろしくお願ひいたします。後列は保健給食課の給食係の面々となっておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。では続きましてこの会の座長を決定したいと思ひます。座長は新潟市学校給食懇話会開催要綱のとおり、委員の互選により決定したいと思ひますが、どなたか希望や推薦はございますでしょうか。

村井委員お願ひいたします。

(村井委員)

はい、推薦させていただきたいのですが、村山先生にぜひお願ひできたらと思ひています。村山先生は食育推進会議の座長を務めていらっしゃいますので適任ではないかなというふうに思ひています。よろしくお願ひします。

(司 会)

はい、ありがとうございました。ただいま村山委員がよいのではないかと申すご推薦をいただきましたけれども、いかがでございましょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。では異議がないということで、村山委員に座長をお願いしたいと思いますので、村山委員申し訳ございませんが、座長席の方にお移りください。では村山座長から一言ご挨拶いただいでよろしいでしょうか。

(村山座長)

はい。ただいまご推薦いただきました。新潟県立大学の村山でございます。先ほど自己紹介はさせていただきましたので、割愛させていただきます。今皆さまからのご挨拶いただいたところ、非常に多彩で、ふさわしいメンバーだということも本当によくわかりましたので、皆様と一緒によりよい給食に向けて議論を進めてまいりたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。座長の代理は大坪委員をお願いしたいのですが、いかがでしょうか。では大坪委員をお願いしたいと思います。

(了承)

では大坪委員をお願いしたいと思います。

(村山座長)

ここで一旦事務局にお返しいたします。

【(1)「新潟市の学校給食の現状と課題」】

(司 会)

村山座長、ありがとうございました。

それでは、ここから議事に入りたいと思いますので、改めまして、村山座長に進行をお願いしたいと思います。

(村山座長)

それでは、本日の議題に入ります。次第にあるとおりですけれども、お手元の資料をご覧になってお分かりのとおり、今日はたくさんの情報につきまして事務局からの情報提供があります。まず説明になりますが、その他の議事も含めまして 12 時終了ということで、ご協力よろしく願いいたします。

それでは、議事(1)「新潟市の学校給食の現状と課題」について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

保健給食課の堂前と申します。私から学校給食の現状と課題についてご説明をさせていただきます。よろしく願いします。お手元の資料、スライドの資料か画面を見てい

ただければと思います。

まず、全体としては1の新潟市の学校給食の現状、2の課題、2-1取り巻く環境、そして課題ということで、ご説明をさせていただきます。

まずは現状です。我々が提供しています学校給食は、学校給食法に基づいて提供させていただいています。その目標については、適切な栄養摂取のほか、食習慣を養うですとか、精神を養う、知識をつけるなど、多岐にわたっています。

新潟市での学校給食はこのような提供方式を行っており、先ほどお話に出ていましたが、自校で調理する自校方式、給食センターから配送する給食センター方式、そして新潟市の学校給食の一番の特徴でありますスクールランチ方式と、この3種類で提供させていただいています。実際の提供個数や食数はこちらのようになっています。

スクールランチについてですが、元々ここにありますように食生活を主体的に自己管理できる能力を育てるということを目指しています。自分の体のことは自分で選択するというのが目標になっています。提供については、民間事業者3社からデリバリーを行っていきまして、下のようなランチルームで小学校のような給食ですね、このようなランチルームと、ランチボックスというお弁当箱のような形式、この2種類を提供しており、それぞれ2献立ずつあります。また、家庭から弁当を持参することも可というふうにしています。このように、スクールランチという特徴のある給食を提供しています。

続いての資料は、学校給食センターの配置図となっています。ご覧のように13のセンターから給食を提供しているところもあり、小学校の給食の提供方式をエリアで示したのになります。青いほうが自校式の学校になります。旧新潟市を中心に周辺の合併市町村の一部が自校式をメインに行っています。また、オレンジのほうは給食センターがあり、給食センターから配送している学校になります。

続いて、中学校になりますと、オレンジのところはほぼ変わらず給食センターですが、青いところが自校式のほか、スクールランチ方式ということで入っています。スクールランチについては旧新潟市と周辺の一部の合併市町村で提供しています。

給食の中でのアレルギー対応についてです。給食でのアレルギー対応人数は、小学校、中学校はこの程度になっていまして、対応割合としては小学校で3パーセント、中学校で2パーセント程度ということになっていまして、それぞれの子どもたちの状態ですとか、学校の施設・設備・人員体制などによって、どのような対応ができるかは異なっています。また、スクールランチではアレルギー対応を今は行っていないという状況にあります。

続いて、アレルギー対応でも活躍しており、学校給食管理ですとか食育の中心になっていただいている栄養教諭の先生方の配置についてですが、自校式については1校から2校あたり1名を配置させていただいています。また、給食センターについては1施設あたり1から3名。スクールランチについては配置をしていないという状況です。全体としては新潟市内で64名の方を配置させていただいています。

続いて、新潟市の中学校給食の経緯ですが、こちらは参考に後ほどご覧いただければ

と思います。

ここまでが現状で、次は課題について入っていきます。課題の前に、給食を取り巻く環境ということでご説明をさせていただきます。取り巻く環境として、この6点をピックアップしてご説明をいたします。

まず一つ目、「コロナ禍で給食の重要性を再認識」ということで、本市でもコロナによる長期の臨時休業がありました。3月の全市一斉休業と4月の緊急事態宣言に伴う臨時休業の2回ありました。世界でも、やはり同じような状況で、休校で40パーセントの給食を逃し、子どもたちに迫る栄養危機ということで世界的にも給食がなかったことによる栄養の状態が悪くなっているという情報もあります、ということで、栄養摂取という給食の役割、重要性が再認識されているところです。

続いて、「食生活の乱れ」、これは以前から言われていますが、それについてです。一例として、朝食を説明させていただきます。小学校、中学校の新潟市、新潟県、全国の朝食を食べているかというアンケートの結果になっています。新潟市は小学校、中学校ともに全国に比べれば少ないものの、3.5パーセント、6パーセントと一定の数が朝食を食べていないという状況が分かるかと思えます。

続いて、「肥満・瘦身の傾向」になります。青いグラフですが、肥満は小・中ともに増加傾向で、今、小学校で8.6パーセント、中学校で8.5パーセントと増えてきています。一方、痩身について小学校はずっと横ばいですが、中学校は増加をしている傾向があって、令和3年度で少し下がってはいるというような状況です。

また、新潟市は体格、体力が優れているというデータもあります。身長については小5・中2で男女ともに政令指定都市20市の中で一番高いという状況があります。また、体力についても政令指定都市の中で上位にあるという結果が出ています。

続きまして、「さらなる食育の重要性、高まり」についてです。こちら農林水産省が出している食育推進基本計画の抜粋になります。基本的な方針のところに大きな柱として、「生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進」というものがあります。また、学校についても目標としては地場産物を活用した取り組みですとか、推進する内容として、栄養教諭の一層の配置促進、また郷土料理の歴史やゆかり、食材などを学ぶということが記載されています。新潟市でも同様に食育の計画を作って進めているところです。

また、最近「食材の多様化」も言われています。カット野菜などの加工野菜ですとか、加工する業務向けの野菜の出荷量が増えてきていますし、また様々な地元食材をジュースやジャムなどに加工するなどということも増えてきていますし、こちらのようなアレルギー対応の食材なども出てきており、食材が多様化しています。

また、話は少し変わりますが、「学校給食費の公会計化」というものを今、新潟市では取り組んでいます。今まで私会計というものですが、学校が給食費を徴収・管理して支出は学校から行う仕組みをしておりましたが、公会計化というものは給食費を市が徴収管理をして、また食材の支払いも市が行うと、こちらの図のようなことになることで、学校の給食費の徴収管理を行っていた教職員の負担軽減ですとか、保護者の利便性向上など、様々な効果があると思い、今、取り組んでいるところです。ここまでが給食を取

り巻く環境として主なものを挙げさせていただきました。

また、これらから出てくる課題として、主なものを四つ挙げさせていただいています。それぞれ一つずつ見ていきます。

まず、「残食の問題」です。残食率のデータがありますが、自校式と給食センター式、スクールランチでは調査の方法が違うので一概に比較できるかどうか難しいところですが、自校式については3パーセント強、給食センターは5パーセント強の残食があると。一方で、スクールランチについては11パーセントを超える残食、中でもランチボックスは13パーセント残食量があるというような結果が出ています。これだけ残食があると、新潟市で定めている栄養の摂取基準がカロリーもそうですし、ほかの栄養素についても十分とれていないのではないかという心配が出てきています。

続いて、「嗜好等による食の偏重」です。学校給食の好みについてですが、これは小学校・中学校の実際の声をお願いしているものですが、以前と同様、魚が嫌いとか野菜・きのこが嫌いという声があります。また、普段の食生活で食べ慣れていないものについては嫌いとか食べたくないという声もあるようです。

また、スクールランチについてです。青いグラフが1年生、オレンジが2年生、灰色が3年生ということで、だんだん食べている数が減っているというのが見て取れるかと思えます。全体として利用率は6割強ということになっておりまして、残りの4割の方は家からの弁当等を持参しているということですが、その中でも一部の方は例えばコンビニのおにぎりやパンなどを持ってきていて、アンケートでは、一部の学校で栄養面で心配な生徒がいるというお答えをいただいています。さらに、まったく食べていないというような子も僅かながらいるということが実際の現場での確認では出ています。それぞれの理由として、家庭環境の問題ももちろんありますが、本人の好みというものもあると。また、一部の学校で伺った話では、親が、子どもが好きなものを食べたほうが良いという方針で、コンビニのおにぎりやパンを食べさせているというようなことを聞いています。

また、スクールランチについて現場の教員より聞き取ったお話を共有しますが、以前より聞いておりますが、おかずが冷たいという話もありますが、どうもご飯の量、スクールランチについては大盛り、普通、小盛りの3段階あるのですが、大盛りでも少ないですとか、小盛りでも多いというようなご飯の量についての意見も多いと聞いています。また、元々スクールランチは自分の体のことは自分で選択するという目標で始まっておりますが、どうも生徒は好き嫌いで献立を選んでいるというような印象があるということも伺っています。

また、食育について、スクールランチは全員で同じものを食べているわけではないので、スクールランチを素材として使った食育は難しいという声をいただいていますし、また蓋を閉めてしまうとどれくらい残っているか分からないということで、残食の状況把握が困難だというようなお話もいただいています。

続いての課題、「食育の充実化、切れ目のない食育」になります。食育については先ほど農林水産省の計画もありましたが、食育基本法というものに基づいて行っておりま

して、本市でも新潟市食育推進条例というものを制定して取組みを行っています。また、各学校では食育に関する計画を策定していただいて、学校の中で学級担任ですとか栄養教諭の先生方が様々な取組みをされています。例えば、学校全体への講演会のようなもの、また掲示物による啓発、授業の中での食育など、様々な取組みを行っています。

また、市全体としてもアグリ・スタディ・プログラムという取組みをしております、アグリパークという施設で様々な農業体験をできるようにしています。実際の授業の中の例えば、学習「人のからだのつくりと働き」という授業と酪農体験が結びつくことで学びを深めて、より効果のある食育を行っています。

また、栄養教諭が配置されていないスクールランチの実施校については、栄養士や管理栄養士を派遣して食育指導を行っています。実際に各学年ごとにそれぞれ指導内容を決めて食育の指導を行っています。少しずつコースを今、増やしているところです。全体的にどのくらいの食育指導をしているかというデータですが、1校あたりの年間平均実施回数になります。こちら赤いところを見ていただくと、給食の時間を使った直接の指導という点では、全体では9回程度、小学校では12回程度ですが、中学校にあがると2回程度と、大きく減ってしまいます。また、スクールランチ校については直接の指導はなかなか難しいということで0.6回というふうに減ってしまっています。回数が多いからよいというわけではないですが、どうしても数が減ってしまうというのが現状としてあるようです。また、学校によってかなり取組みによって状況に差があるという話も伺っています。

続いて、「地産地消の推進」という課題です。ご存じのとおり新潟は水稲、米の収穫量が非常に多いです。全国の市町村でもずば抜けて高いという結果になっています。ですので、完全米飯給食というものを実施しています。週4.5日以上は米飯を食べるということで、米飯以外のパンや麺が出るのは月に2回程度ということで今進めておまして、全国実施回数、週3.5回ですが、それより1日多いというように米飯を多く出しています。

また、米以外にも様々な農畜産物がございます。枝豆ですとかスイカ、ルレクチュですとかトマトと、様々な農畜産物があります。農業については課題もいくつかありまして、農業の就業人口が減少したり高齢化しているという中で、実際には新規就農者ですとか65歳未満の若い方も一定数いるということになっています。そのような状況の中、新潟市ではSDGs未来都市という取組みを行って、様々な農業の課題に対応しているという状況があります。

給食の話に戻りますが、給食で使用する食材の構成についてのデータです。5日分でデータを集計したものになりますが、金額ベースでは週4.5日出ます米については16パーセントを占めています。また、ほぼ毎日出ます牛乳については19パーセントということで、かなり多くの割合を占めています。これらが地場産品としてどれくらい使われているかというのが、こちらのデータになります。お米については、こちら赤いところで市内産の割合がほぼ100パーセントになっていますが、牛乳については市内産が5パーセントということでだいぶ減ってきてしまっています。これは新潟市内に乳牛が少な

いという産業構造的な問題がありますが、県内産としてはほぼ 100 パーセントということになっています。一方で、果物ですとか水産物というものは実際、新潟市内でもとれるのですが、なかなか地場産の割合が少ないというような状況になっています。もちろん学校の中では地域の郷土料理を取り入れた献立ですとか、地産地消の献立なんかを各学校で実施しています。ただ、学校給食の食材として使う場合に、いろいろな条件というか、望まれることがあります。例えば、数量が確保できること、それから給食費の制限がありますので安価であること、また当日朝に納入できることすとか、形が揃っているというようなことが望まれるということで、この辺りが地場産を活用する障壁になっている可能性があると考えています。

ということで、ここまでで学校給食を取り巻く環境と課題についてご説明をさせていただきました。ご説明は以上です。よろしくお祈いします。

【(1) 質疑応答・意見交換】

(村山座長)

ありがとうございます。ただいま事務局から学校給食の現状と課題について説明がありましたけれども、ここから皆様から質疑、質問やご意見をいただいて、それらをとおして皆様で情報と認識の共有をしたいと思ひます。

それでは、学校給食の現状と課題について、ご質問・ご意見などございましたらお願いいたします。

では赤松委員、お祈いします。

(赤松委員)

赤松です。ご説明いただき、ありがとうございます。私は新潟の地理的なこともよく分からないので、今のご説明でだいたい現状を把握いたしました。

やはり気になるところは残菜です。いろいろな給食の提供方法をしているということと、残菜率が提供法によってかなりバラツキがあるということが気になりました。スクールランチも2種類あり、スクールランチと一緒に言うことはできないというのが印象です。やはり残菜率が 13.0%というのは気になるところです。以上、感想でございました。

(村山座長)

ありがとうございます。ランチボックスとランチルームなのですが、追加でご説明いただけますか。ランチボックスの日とランチルーム、子どもにとってはその日によって違ったりするという認識でよろしいのですよね。

(事務局)

はい。ランチルームに生徒全員が入れるわけではないので、例えば週に1回ですとか、月に何回というような学校もありますし、小規模校ですと、例えばここに記載していま

す、この2校については生徒数も少ないので全員がランチルームで毎日食べているという状況になっています。

(村山座長)

様々なパターンがあるということになりますが、来週見学に行くところはいかがでしょうか。校長先生、お願いします。

(逸見オブザーバー)

小針中学校は現在 28 学級ありますので、そうしますと 2 クラスが今、ランチルームに入れる状況ということなので、月に 1 回、2 回が温かい献立をいただくという形であります。

(村山座長)

やはり実感としてもランチルームだと残食が少ない。ボックスだとちょっと多いかなという感じでしょうか。

(逸見オブザーバー)

そうですね、ランチルームとボックスの残量がどうかという実態を把握しておりませんが、検食をランチルームで職員が行います。そのときにランチルームには A と B の献立があるのですが、やはり日によって A と B のバラツキも違いますし、ほとんど A がないというようなこともあります。ですので、ランチルームを利用するからといって、みんなが温かい提供される食事を食べているわけではないのだなというふうなことは感じています。

(村山座長)

分かりました。ありがとうございます。赤松委員、何か追加でご質問はございますか。

(赤松委員)

大丈夫です。

(村山座長)

大丈夫ですか。ありがとうございます。事務局からお願いします。

(事務局)

追加で説明させていただきますと、今コロナ禍ということで、コロナ以前であれば、通常、対面で多くの人数がランチルームで食べていただけたところなのですが、密の解消ということで一方方向、約半分にしたというところでランチルームの人数を制限しているということがあります。その分を各教室にランチボックスを持っていてい

ただいていると。ですので、ランチルームでの食事よりも、こういう時期であるが故にランチボックスの利用も増えているという状況は一つあります。

(村山座長)

ありがとうございます。ほかに、いかがでしょうか。佐藤委員、お願いします。

(佐藤委員)

スクールランチに関連して、29枚目のスライドのスクールランチの喫食状況のグラフについてお聞きしたいのですが、高学年ほど低下する傾向の理由をどのように分析しているかという点と、あとはこの振り幅がものすごく印象的な感じなのですが、これは何か理由があるのかお聞かせいただけますか。

(村山座長)

事務局よりお願いいたします。

(事務局)

高学年ほど喫食数が低下する理由は明確ではないですが、もしかすると好みが多様になってきたり、思春期的に自分で自分はこういうものを食べたいというふうなものになっているのかもしれないということですが、ここはすみません、明確には分かりません。また、急激に落ち込んでいるところは恐らく行事などでランチがなかった、給食がなかったという状況になるかと思えます。

(村山座長)

ほかに、いかがでしょうか。大坪委員、お願いします。

(大坪委員)

ご説明ありがとうございました。大変よく分かりました。スライドの9番と10番を拝見したのですけれども、やはり先ほど赤松先生からもご指摘がありましたように、方式による違いというところで、心配だなと思ったところがございまして、やはり「スクールランチではアレルギー対応を行っていない」ということがちょっと心配だなということ。それから、10ページでは栄養教諭の先生方の配置がないと。派遣していらっしゃるというお話はあったのですけれども、やはりいらっしゃったほうが、より懇切丁寧な説明ができるのではないかなということ、この方式による差ということ、ちょっと心配な点。アレルギーの点と栄養教諭の配置の点で心配な点があるのかなと。それ以外では米飯給食が非常に高いとか、素材が豊かであるとか、いろいろいいことも伺いましたので、ちょっと心配な点だけ感じたことを申し上げました。

(村山座長)

ありがとうございました。ほかに、いかがでしょうか。山崎委員、お願いします。

(山崎委員)

資料の中で、46ページのところに地産地消の使用割合と書いてあります。ここは農業の部分かなと思うのですが、新潟市の給食の取組みの方針として、地産地消って何のために方針として入れているのかということをご説明いただくとありがたいです。

(村山座長)

事務局よりお願いします。

(事務局)

やはり地産地消に取り組むということは、学校現場により近い、距離的にも時間的にもより近くなるということで、より新鮮なものを届けられるということが一つあると思いますし、やはり顔の見える近くの生産者がより近くにいるということで、顔の見える関係を築き上げることができて、様々な活動に支えられているのだろうということが理解できたり、感謝の気持ちや、食べ物を大切にすることを育むとかといったようなところで大いに役に立つということだろうと思います。

(山崎委員)

ありがとうございます。

(村山座長)

よろしいでしょうか。ありがとうございます。質問なのですが、スクールランチの場合とそうではない場合の地場産品の使用割合のデータがありましたでしょうか。お願いします。

(事務局)

今、スライドではお示しはしていませんが、データとしてはありまして、自校とセンターとさほど変わらなかったと思います。

(赤松委員)

少し教えていただいてもいいですか。統一献立ではなくて、スクールランチは全部同じメニュー、センターや自校式はそれぞれでメニューを作っているということですか。

(事務局)

新潟市としては、標準的な献立を作っておりますが、それを基にそれぞれ自校式は各校で、給食センターはセンター単位で献立を作っています。また、スクールランチにつ

きましては、新潟市の教育委員会事務局、私共の課のほうで一括こういう献立をと
いうことで立てさせていただいています。

(赤松委員)

ランチボックスになってもランチルームで食べても同じ、それは同じメニューとい
うことですか。

(事務局)

ボックスとランチルームですと、一部の副菜を箱に入れられる、入れられないとい
うところがありますので、一部の違いはあります。それぞれボックスでも2種類、ラン
チルーム用でも2種類ですので、細かく言いますと計4種類あるということになります。

(赤松委員)

ありがとうございます。

(村山座長)

今のお話は中学校についてですよね。中学校について今のスクールランチ形式の4種
類と給食センターのところもあるのですよね。その給食センターのメニューはまた違
うというふうな認識でいいのですね。

(事務局)

給食センターは小学校にも中学校にも出しておりますので、給食センターで献立を作
って、それぞれの受配校にお配り、お届けしているという形になります。

(村山座長)

ありがとうございます。そうすると、先ほどの私の質問との関連で言うと、スク
ールランチの場合も新潟市のほうで献立を立てていて、これは市内産のものを使い
ましょうとか、そういうふうに指定しているというような感じなのではないですか。

(事務局)

献立の中身は作っておりますが、食材の指定はしていないようです。

(事務局)

ただ、できるだけ地場産の食材をとすることはお願いしているということであり
ます。

(村山座長)

それで、スクールランチでもそうでなくても、地場産使用割合はあまり変わらない
という話だったのですよね。ありがとうございます。山崎委員、お願いします。

(山崎委員)

今の質問に追加で、その食材の調達を決める、どこから取ってくるのか、J Aから取ってくるのか、この農家さんから取ってくるというのを決めるのはどういうお立場の方なのでしょうか。

(事務局)

それぞれ自校式であれば自校で、センターであればセンターで、そのメニューに適した食材について地域の八百屋さんですとかJ Aさんですとか、その中から場合によっては入札で価格競争をしたり、品質を見ながら、それぞれで決定している状況です。

(村山座長)

よろしいでしょうか。

(山崎委員)

今、お隣にいらっしゃる栄養教諭の先生方も、じゃあこのものを使いましょうとかと決めるのでしょうか。

(村山座長)

栄養教諭の先生方からお願いします。渡邊先生、お願いします。

(渡邊オブザーバー)

学校に入っている八百屋さんですとか、業者さんがいらっしゃるので、その方々にお願いをしていって、それぞれの学校で注文しています。

(村山座長)

富張先生、いかがでしょうか。

(富張オブザーバー)

渡邊先生と同じなのですけれども、新潟市の場合は地場産物を使うという流れがかなり出来上がっておりますので、季節によっては、それこそ保健給食課さんのほうの主導でじゃがいも、たまねぎ等を優先的に給食に取り入れさせてもらったりしていますし、八百屋さんたちのほうも、やはりそういった面で給食は地場産物という感じで優先的に入れていただいているのではないかなと私は思っています。

(村山座長)

ありがとうございます。山崎委員、よろしいでしょうか。

(事務局)

加えまして、長期保存がきくような油、しょうゆ等の調味料というものは共同で買って、スケールメリットを出したような形で新潟市の学校ですとかセンターにお届けしているという、そういうイメージです。

(村山座長)

ありがとうございます。そのほかに、いかがでしょうか。ご質問・ご意見ありませんか。村井委員、何かございませんか。

(村井委員)

今の食材の調達については私も以前、取材をさせていただいたことがあって、自校方式になっている学校さんと、センターで納入している野菜にどんな違いがあるのですかというようなことのお話をお伺いしたことがあるのです。その辺りは市のほうではどういふふうにお考えになっていますでしょうか。

(村山座長)

事務局からコメントありますでしょうか。

(事務局)

すみません、今のご質問、もう少し詳しく聞かせていただけると。ちょっとその経緯を今、初めて聞いたところもあって、もう少し詳しくお聞かせいただくと大変ありがたいのですが、その辺をお聞かせいただけますでしょうか。

(村井委員)

自校式の場合というのは、その学校で給食を作られますね。ですので、業者がこういうものを持ってきましたと、納入する際に食材のチェックをしていただくそうです。ですが、センターの場合は比較的それが大量で一括納入という形になるので、どうしても甘くなってしまう。あと、食材の量が多いので、多少、質的なもので納入される業者さんのほうが「うん？どうかな」というものも多分入るでしょう。というようなことをおっしゃっていました。なので、質によって給食の栄養が変わるとか、そういうことではないとは思いますが、味の部分、実際、生徒たちにアンケートを取らせていただいて、味のことにいろいろ聞いたアンケートがあるのですけれども、そこではやはりどうしても食感が悪いとか、冷たくておいしくないとか、子どもたちは比較的、味に敏感ですので、そういった部分で残食に影響しているのではないかなど。残食に影響しているのは単に温度ですとか、あるいは味付けだけではなくて、食材そのものにも、もしかすると問題があるのかなというふうな問題意識を持っていましたので、それで今の質問をさせていただきました。

(村山座長)

そうすると、センターというよりもスクールランチですか。

(村井委員)

スクールランチが多いというふうに聞いています。

(村山座長)

自校式に比べて、スクールランチの場合ということですかね。

(村井委員)

はい。

(村山座長)

この観点で、いかがですか。

(事務局)

私共としては、自校式であってもセンターであってもスクールランチであっても、安心・安全なもの、できるだけいいものをということで作っているというふうに信じているところです。引き続き、その方針で作っていくのは当然のことだと思っておりますし、あとはもう一つ、冷たさ、温度の関係ですけれども、自校式も食缶方式が基本ですし、学校給食センターも食缶です。ただ、配送の時間は多少あるということなのですが、食缶というよくできたもので、それほど温度は下がるものではないというふうに理解していますし、もう一つスクールランチはやはりボックスですと、いろいろな食材が箱の中に入るわけなので、10度以下にまず下げるということが必要になりますので、そういったことからすると冷たいということはあるのかなと考えています。

(村山座長)

ありがとうございます。よろしいでしょうか。佐久間委員、お願いします。

(佐久間委員)

残食のところで、スクールランチのランチボックスとランチルームの残食の差は私は、ランチボックスってもうある程度の決められた量が皆さんに配られちゃって、これ嫌いだからあげるねとか、ご飯足りないからちょうだいというのはできないと思うのですけれども、ランチルームだと初めから食べられない体の細い子はちょっとだけ盛るとか、体が大きくていっぱい食べる子はたくさん盛るとい、そういうようなことが残食の減少につながるのかなというふうに受け止めたのですけれども、31ページのスクールランチの現場の教員の聞き取りのところも、最も大きく聞こえるのはご飯の量についての意見ということなので、そこがこの差なのか。初めからランチボックスにいっぱいご飯が

入っていて、中学生ともなるとかなり体格の差が出てきますし、運動部か文化部かでも食べる量の差が出てくると思うので、だからランチボックスのある程度の残食はしょうがないのかなというふうに私は捉えたのですけれども、ランチルームだとおかわりができたりするのですか。

(村山座長)

この点について、事務局から回答いただけますか。

(事務局)

おっしゃるとおり、ランチルームですとおかわりできます。

(佐久間委員)

そうですね。自校式で自分の子どもの給食の様子を見に行ったときなんて、男子が一生懸命牛乳6本飲んでいたりとか、ご飯を3回おかわりしたり、先生も残すとよくなからと「食べられる子」なんて言って、3回も4回もおかわりしている子がいたりさいました。そういう様子を思い浮かべると、本当にランチボックスはしょうがないのかなという、そういうやり取りもないのがちょっとさみしいなというか残念だなという気はします。意見です。

(村山座長)

ありがとうございます。自分の体に合わせて選ぶという目的だったはずなのだけでも、実はそうでもなくなっているということですね、ありがとうございます。

ほかには、いかがでしょうか。大丈夫でしょうか。村井委員、お願いします。

(村井委員)

31 ページの食育の部分なのですが、「スクールランチを使った食育は難しい」というふうに先ほどご説明があったのですが、スクールランチを使った食育ということで何か今、取り組んでいらっしゃるかどうか、そこで何かこういう問題があって難しいんだということはありますでしょうか。

(事務局)

スクールランチですが、先ほど説明させていただいたように、栄養教諭、栄養職員を配置していません。ですので、栄養士の資格を持った専門家から学校に食育指導を派遣させてもらって、授業や指導を展開しているところでもあります。ただ、全校がそれを行っているわけではございません。あとは養護教諭さんをはじめとして、学校の先生が食育指導を展開してくださっているという面もございます。

(逸見オブザーバー)

現場のいわゆるセンター方式とスクールランチ両方を見ていて感じるのは、やはり生徒が同じものを食べているときには、そのことで共通の指導ができると思うのですが、4種類の食事を食べているときに共通しているものが、もしかしたらご飯しかない、その状態で、例えばこの食品について、この料理についてという、いわゆる食事の指導というふうなものが難しい状況にあるなと思います。ですので、この4種類が共通の献立である、そういう日があったならば食育は可能ではないかなというふうに思います。

【(2)「検討に関する項目(案)の確認」】

(村山座長)

ありがとうございます。それでは、様々な課題が見えてきましたけれども、これ以上なければ次の議題に移りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

これらの現状と課題を踏まえて、次に(2)「検討に関する項目(案)の確認」をしていきたいと思います。こちら事務局からまずご説明をお願いいたします。

(事務局)

また保健給食課の堂前からご説明をさせていただきます。資料50ページ目からになります。検討に関する項目(案)ということで、この懇話会で検討いただきたい項目についてご説明をさせていただきます。

大きくこの四つを挙げさせていただいています。まずは「適切な栄養摂取による健康の保持増進」、二つ目として「学校給食を活用した小学校から中学校まで切れ目のない食育」、三つ目として「地産地消を含む魅力ある学校給食の提供」ということで、これらの三つのことを踏まえて、4のところですが「学校給食の今後のあり方について」、今後どのような学校給食を提供していけばよいかというご議論をお願いしたいと思っています。それぞれ説明をしていきます。

まずは、一つ目の適切な栄養摂取についてですが、現状と課題は先ほどご説明したものの繰り返しになりますが、残食については提供方式により残食の差が大きいということがあります。また、好き嫌いは依然としてありますし、スクールランチについては利用率が60パーセント程度になっておりまして、また献立については好き嫌いで選んでいるという印象、さらにはパンやおにぎりのみですとか、何も食べておらず栄養面で心配な生徒もいるというような課題があります。このような中、適切な栄養摂取の役割を給食が果たしていくにはどのような取組みが必要かご議論をお願いしたいと思います。

また、二つ目として、小学校から中学校まで切れ目のない食育についてですが、現状と課題について、新潟市でも様々な場面で食育の取組みを行っています。しかし、回数が多ければいいかということはあると思いますが、中学校では回数が大幅に減少しています。また、学校の中でも様々な実施状況があるというふうに聞いています。また、スクールランチ校では先ほどもありましたが、現状では直接的な指導が行いづらいという現状があります。という中で、小学校から中学校まで切れ目のない食育を行うにはどのような取

組みが必要かご議論をお願いしたいと思います。

三つ目として、地産地消を含む魅力ある給食提供についてです。現状と課題について、新潟市はお米が特産ですが、それ以外にも様々な農畜産物があります。しかし市内産は3割程度ということになっています。また、給食に使用する食材については一定の数量ですとか低価格、揃った規格などということで条件のようなものがあるという状況です。また、先ほどの議論でもありました、小学校では温かい給食を提供している一方、スクールランチでは衛生管理の問題からおかずを冷たくしているというところで差が出てしまっています。そのような中で、魅力ある給食とはいったいどのようなものか、また、その魅力ある給食を子どもたちに届けていくにはどうしたらよいか、ご議論をお願いしたいと思います。

四つ目ですが、学校給食の今後のあり方ということで、現状と課題、小学校、中学校それぞれ提供方式も一部違うところがありますし、状況は様々違うという中で、先ほどの3点、適切な栄養摂取、切れ目のない食育、地産地消を含む魅力ある学校給食の提供を行うには、どのような学校給食を提供していけばよいか、どのような学校給食の制度がよいかということをご議論いただきたいと思っています。これら4点について、この懇話会でご議論いただきたいと思っています。

併せて今後のスケジュールとしまして、まず今回の会で現状と課題の確認と今後の検討の方向性についてご議論いただきまして、次回、第2回では新潟市の給食の最大の特徴であるスクールランチの、なかなか状況が分からない方もいらっしゃるかと思うので現場を視察して試食をいただく。第3回以降で先ほど挙げた項目についてご議論いただいて、第7回、9月の提言のとりまとめにつなげていきたいと考えています。

【(2) 質疑応答・意見交換】

(村山座長)

ありがとうございます。それでは、このご提案いただきました案の検討事項につきまして、この中でどの課題が大きいかというのがありますし、これ以外のことでもお気づきの点があればお話しいただければと思います。いかがでしょうか。赤松委員、お願いします。

(赤松委員)

給食の提供に関しては、先ほどの議論からも中学校も小学校と同じような自校式かセンターかにできればベストではないかと思うのですが、センターを作れるかという予算等の問題も多分あると思います。もしも改善させるとすると、スクールランチはランチボックスではなく、部屋で食べる、教室で食べるような形式にできないものかと思います。ただ、そうした場合に何が必要なのか。食缶を教室まで運ぶエレベーターがないといった問題もあるようなので、その辺り、施設の改修工事ができるかなど、いろいろな問題が出てくるかと思っています。メリットとデメリットを整理していく必要があると思います。

あとは中学校にあがると食育が少ないというのは、これは新潟市の問題だけではありません。私も以前、調査をしたことがあります。関東でもそのような現状が見られています。それにはいろいろな要因が絡んでいると思ひまして、まず一つは時間割のことです。時間割が結構つまっていて、給食の時間も短かったりする学校もあるようです。中学校の場合、教室を移動したりということもあるようなので、この辺りの現状を調べる必要があると思ひます。

あと、やはりいちばん大きいのは、先生方の認識が中学校になってくると食育の重要性が減ってきている感じがします。小学校はやはり生活指導の部分でも、食育や給食指導は、時間を割いているようですが、中学校になってくると減っています。学校の先生たちに対する研修なども必要になってくるのではないかと思ひます。思いついたような意見で申し訳ないのですが、私からは以上です。

(村山座長)

ありがとうございます。今日、結論を出すというものではありませんので、ご自由に認識を深める、あるいは疑問点、お気づきの点があったらご自由にご発言いただければと思ひます。いかがでしょうか。

この三つの課題、論点について、大坪委員、何かお気づきの点はありますか。あとはもう少し深めたいとか、この辺は大事ではないかとか。

(大坪委員)

1、2、3、4、特に1、2、3、ご説明いただいた内容で適切な課題かなと思ひておりまして、少しでもいろいろな形で現場も見せていただきながら提言でも質問でもできればと思ひます。私が特に感じておりますのは、新潟県は先ほどのご説明にもありましたように、新潟市、政令指定都市の中で断トツにお米も多いし農産物も豊かであると。私も関東からだいぶ前に新潟にまいりましてから非常に豊かなおいしいところだなと、お米に限らず農産物も水産物もおいしいなと思ひています。ですから、できればそういったものをできるだけ小学校、中学校の時代から給食を通じて味わっていただきたいし、それを通じて食育に役立てていただければと思ひておりますので、今回のこういった懇話会を通じて、その議論が深まっていって実施できればと思ひています。

先ほどの赤松先生のご意見を伺ひて、ぜひ予算を確保していただいて、センターを作るとか、そういった方面もやっていただければと感じています。以上、感想でございます。

(村山座長)

ありがとうございました。

私もやはり小学校は改良するというよりは結構充実してやられているような気がするのですが、中学校のほうにいろいろ改善の余地があるのかなというふうには伺ひておりました。

ほかに、いかがでしょうか。佐藤委員、何かお気づきの点があればお願いします。

(佐藤委員)

私は一番この中で問題と思ったのが、1番の「適切な栄養摂取による健康の保持増進」の中の現状と課題の一番下、スクールランチのうしろ、パンやおにぎりのみや、何も食べておらず栄養面で心配な生徒も教職員のヒヤリングではいらっしゃるということが最も問題だなと思いました。給食にすれば、それは改善ができる方向に多分進むと思うので、ここが論点の中でも最重要なところかなというふうには感じています。

また、次のページの「スクールランチ実施校では、給食を活用した直接的な指導が行いづらい」ということで、先ほど0.6回食育をやっているというデータがあったと思うのですが、事実上、給食を活用した直接的な指導は無理なような気がして、先ほど4種類の食事という話があったのですけれども、4種類どころか4割の方はお弁当等で、それ以上にみんなバラバラという形なので、指導は現状では無理なのかなと思いました。逆にやっている学校はどういうふうに行っているのか、先ほど0.6回というデータがあったと思うのですけれども、どういう形で行っているのかなという印象を持ちました。

(村山座長)

ありがとうございます。重要な点ということで今、ご意見いただきました。確かに学校給食でみんな同じものを食べるというような形式であれば、何も食べないということはないわけですし、パンやおにぎりだけということもないということで、確かに本当に重要な点かなと私も思いました。

ほかには、いかがでしょうか。佐久間委員、いかがでしょうか。

(佐久間委員)

検討に関する項目、栄養とか健康とか、すごく丁寧な説明で、この検討事項というか目的はすごくいいなと思うのですけれども、ただスクールランチを食べる子もいればお弁当の子もいて、そのお弁当の子がどれだけいいものを食べているか、スクールランチに優るくらいの栄養を考えたメニューを持っているかどうかというのは分からないわけで、全体をとおしての食に対する理解というか思いというか、そういうものは大事にしていかないとだめかなと思っています。やはり中学生になり思春期になると食べるのが悪い、ではないですけれども、ダイエット志向みたいな感じで本当に食べない子もいるし、びっくりしたのは産後のお母さんでサプリメントを並べてごはんです、みたいなことがありました。そういうことが、もう現代社会ではありえるわけで、そうではなくて、本当に食べることは生きるために必要なことだし、食べることへの意欲とか、食べることの楽しさをやはり給食で、小・中学校の義務教育の間に培ってもらおうというか、根付かせることはすごく大事だと思うのです。摂食障害等もすごく増えているので、食べることは本当に大事なことなので、そう考えたときに、そこに関する項目が何か一つくらい入ってもいいのかなというのを感じています。スクールランチ、給食を今から

変えようと思っても多分そんなに大きくは変えられないと思うのですけれども、それぞれの意識を変えることというのはすごく大事なことだと思うので、食べるのが楽しく、食べるのが大事だなと解れば、残す率もどんなやり方でも少なくなってくると思うし、各家庭もお弁当も大変かもしれないけれども、子どもの栄養を考えて作るだろうし、大人も自分たちの子どもたちの給食やお弁当を作ることをとおして、自分たちの食生活を見直す機会にもなると思うので、もう少し食べることの意欲とか楽しさみたいな、そういう項目があると、もう少し未来が広がるというか、そういうふうに思いました。

(村山座長)

ありがとうございます。論点としては2番に入るという感じですかね。食べることを楽しむとか、食べることの意欲を改善するというか向上させるというか、そういうことですよね。

事務局何か今の点、よろしいでしょうか。

(事務局)

おっしゃるとおり、食べることは生きることに繋がりますので、非常に重要なことだと思っていますので、その辺も含めて検討していければと思います。

(村山座長)

ありがとうございます。

(教育次長)

教育委員会全体の取組みとか、食に限らずという立場でいくと、今、お話があった生涯を通じてということは、これは食だけではなくて、やはりキャリア教育もそうですし、いわゆるタブレットの活用、情報活用能力に関しても、卒業がゴールではなくて、そのときに中学校、小学校で培った力が生涯にわたって将来どうなるかということだと思えます。すべての教育の中身が学校で完結はしなくて、社会とのつながりも含めて、この2番のところということだけではなくて、小・中学校の食で学んだことが生涯にとってどうかということは頭の片隅に置いて議論いただくと、今すべきことは、こうかもしれませんねということが話に加わるといいかなと思いましたので、お話しさせていただきました。ありがとうございました。

(村山座長)

ありがとうございます。確かにそのとおり。その視点も加えたほうがいいですね。将来、それが影響するのだという。小学校時代の食の体験とか食べることということが。その視点をどこかに潜り込んでいただければと思います。

ほかにはいかがでしょうか。村井委員、何かありますか。

(村井委員)

今お話をお伺いしながら給食というのが比較的食育の中で栄養摂取に偏っているのかなという印象をいつも持っています。先ほどのお話にもありましたように、食べているメニューが違うから栄養のお話ができない、これはまさにそのとおりで、今の現状の給食のあり方に栄養指導みたいなものがうまくはまっていけないという、これは一つ課題としてあると思います。

もう一つ、食育という部分で言えば、子どもたちがなぜ給食を残すのか、なぜ朝ごはんを食べないのか、なぜ彼らが痩せ傾向にいくのかという、そこをきちんと押さえておかないと、なぜ給食というものが子どもたちにとって楽しいものでなくなっていくのかということを見失っていくのだらうと思っています。栄養ももちろん大事なのですが、食育という全体の流れで見えていくと、さまざまな食育というものがあって、楽しさであるとか、あるいは文化であるとか、そういったものにもつながってくるのだらうと思っています。

例えば、フランスの「味覚の一週間」という取り組みがありますけれども、あの中ではそれぞれが違うものを食べている、でも甘いとか辛い、あるいはうまいとか、そういった味覚の基本形というのは変わらないわけで、ではその味覚の基本形をどう感じているのかということを経験の中で子どもたちに問うていくと、食材が違って味に対しての感覚の違いというのは、それぞれが学ぶことができるのです。そうなっていくと、味覚の違いをそれぞれがどう感じているのかということで、個性が違うということにつながり、結果的にそれぞれの感覚の違いを認め合うという、いわゆる情操教育であるとか、あるいは個性の教育みたいなものにもつながっていきます。そうなっていくと、いわゆるいじめの問題であるとか、そういったところにまで食育というものの考え方を広げていくことができるのです。ですから、そういう意味では、食育というものの考え方というのは、すごく大きな意味のある、なおかつ子どもたちが大人になって地域を愛していく、あるいは地域の食材、あるいは文化を愛していくということの基本にもなっているのだらうと思っています。

ですから、この三つ、どれも連携していくという形をぜひとれたらいいなというふうにならうに今お話を聞いていて思いました。

(村山座長)

ありがとうございます。事務局からは特によろしいでしょうか。

それでは、山崎委員、何かございますか。

(山崎委員)

私も項目については、概ね良いと思いますし、先ほど皆さんから出た案としても、やはりおっしゃっていただいたような楽しくとか文化とか、そういったところもあると思います。全体をとおして、どうしても項目で並べてしまうと形式的にこれをクリアする、これをクリアするというふうになってしまいがちかと思っておりますので、私の気になる部分

だと地産地消の部分になるのですけれども、その部分においても、やはり本質を捉えて、これから議論を進めたほうが良いと思ひまして、論点としてはすごく良いと思うのですが、牛乳の例にもあるように産業構造的な課題もあつて、市内の地産地消率としては悪いというふうに出ているのですけれども、それで全然良いと思うのです。

先ほどの多様性の部分であれば、ほかの産地の食物を食べるとか、ほかの国のものを食べるとか、「今、小麦は日本ではなくて海外で作られたものを食べます」とか、「それはこういう構造になっているからです」というような勉強も一緒に含められれば、あくまで地産地消にこだわりすぎるということをしなくても食育だったり、今の農業について伝えることができますし、それが将来的にも生活に根差してくるのではないかなと思うので、地産地消は農家にとってはすごく嬉しいことではあるので、それは進めたほうが良いかなと思うのですけれども、日本全国にいろいろな農家の仲間がいて思うのは、別に地産地消にこだわらなくても熊本トマトを食べたりとか、そういうことも勉強になるのかなと考えてはいました。なので、これも特に論点に含めるとかではないのですが、そういう視点も持って、これからお話しできていけたらいいかなと思います。

(村山座長)

貴重なご意見ありがとうございました。

本当に本質的なところでいろいろなご意見が出たと思いますので、今後の議論にぜひ活かしていきたいと思ひます。これら新潟市の学校給食の目指すべき姿ということを本会議で今後も続けて議論していきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ここで今のいろいろな議論を踏まえてというか、それを反映させたほうが良いのかなと思つたのですが、次の議論で(3)「その他」のところで、スクールランチの評価のアンケートを実施するということがあります。その項目の中に、今のような提案が入れられるところは入れてもいいのかなと思ひましたので、少し時間は早めなのですが、次の議論に移らせていただきたいと思ひます。

事務局から(3)「その他」ということで、スクールランチ校に関するアンケートについて、よろしくお願いいたします。

【(3)「その他」】

(事務局)

引き続き、保健給食課の堂前からご説明をさせていただきます。お手元の資料の59ページ目からです。スクールランチの評価について、ご説明をさせていただきます。

スクールランチは開始から20年を経過するというところで、ここで一旦、事業の振り返りをしようということ、中学校給食のさらなる質向上を目指して生徒及び保護者へアンケートをして、実際どう感じるのか、どう考えているのかというお声をいただこうと思ひています。対象については、スクールランチを実施している全校、全生徒、そして保護者に対して行おうと思ひておりまして、調査方法としては生徒につ

いてはGIGAスクールの関係で配っているタブレット端末をとおしてアンケートフォームをお配りします。また、保護者についてはメールまたは紙で配布ということで、急ではありませんが来週から再来週の月曜日までということで行いたいと思っています。

アンケート項目については、お手元に詳細の選択肢も含めたものをお配りしていますが、このようになっています。生徒向けについては、給食時間に食べているものとか、ランチボックスについての課題がやはり大きいと思っていますので、ランチボックスについての感想ですとか、どうして注文しないのかということをお伺いしたいと思っています。

また、ランチルームについてもお話を伺い、実際、子どもたちがどういうふうメニューを選んでいるかと。我々は自分の体のことを考えて選んでほしいと思っていますが、実際どうなっているかということですか、改善されるとよいこと、また中学校給食に望むことや、どういうことを学んだかということを確認したいと思っています。

また、保護者向けについては、まず1から3のところ、子どもが実際にどういうものを食べていて、どういう栄養状態にあると思われるかということをお伺いしたいと思います。また、5番目、6番目のところで保護者から見て子どもがスクールランチを注文する理由、しない理由はどうかということ、それからスクールランチは弁当持参が併用ですので、(7)から(9)というところで弁当持参についてどう考えているかをお伺いし、最後、どういうふうな改善があるとよいかということをお伺いしたいと考えています。雑ぱくですが、説明は以上です。

【(3) 質疑応答・意見交換】

(村山座長)

ありがとうございます。質問なのですが、項目案となっているのは、ここから質問の形式に変えていくということですね。

(事務局)

今、お手元にある資料ですが、資料を表示します。

(村山座長)

これらの項目について、タブレットで選ぶという形になるのですね。

(事務局)

こちらにあります資料を表示していますが、アンケートの形として、最初にいわゆるリード文と言われる最初の説明があって、そのあとこの項目、例えば現在通っている学校について28の選択肢から選んでいただくとか、現在の学年はこの選択肢から選んでいただくというような形式ですと続いていくことを考えています。

(村山座長)

生徒はオンラインで、保護者はメールか紙でしょうか。

(事務局)

保護者もQRコードをつけた紙をお配りして、オンラインでお答えいただこうと思っています。

(村山座長)

分かりました。

今のご説明について、ご質問・ご意見をお伺いしていきたいと思います。ご質問でもいいですし、項目についてのご意見でも構いませんので、よろしく願いいたします。

先ほどの「楽しいか」というのは入れてもいいような気がしますけれども。給食を楽しみにしていると。子どものほうですよ。赤松委員、お願いします。

(赤松委員)

来週、再来週ということなので、あんまり大きな変更はできないのかと思うのですが、生徒に向けて4番目は、「苦手なものがありますか」と「食べるか食べないか」の二つのことを聞いているので、「苦手なものではないが食べない」といった場合、回答しにくいのではないかと、気になりました。

(村山座長)

赤松委員、苦手かどうかと、食べるか食べないかは別の質問にしたほうが良いということですか。

(赤松委員)

はい。それと、6番の項目は複数選択ですが、矛盾した回答が出た場合、どう処理するのかというのが気になりました。例えば6番で「注文する理由について」とあって、複数選択していき、いちばん最後で「注文していない」というのがあります。注文していないに丸をしながらも、「口に合うから」という回答が出てきそうです。できれば枝分かれする質問を一回入れる方がよいと思います。たとえば、6番のところで「注文しますか」というのを聞いて、「注文する」、「注文していない」、それと2校にランチボックスがないという選択肢をして、「注文する」というところを選んだ人が6番を回答するとか、「注文しない」というのが7番というほうが良いのではないかと思います。

7番の選択肢の、「ランチボックスの日は、毎日ランチボックスを食べている」という選択肢が注文しない理由なのか少し疑問に思いました。

(村山座長)

とりあえず以上ですか。どうぞ。

(赤松委員)

あとは、これは一度ご質問させてもらい、性別は聞きづらいとご回答いただいたのですが、少し検討していただいてもいいのかと思っています。たとえば、「分からない」「答えたくない」という選択肢を入れて聞くなども考えられます。先ほども出てきましたが、中学生になってくると、ダイエットの意識、特に女子にみられてきます。ダイエット意識が高いと、本当は食べなくてはいけないけれども残してしまうという問題が見られます。これには、性別の要因というのかなり影響してくるのではないかと思います。

それと 12 番からが全員に対して質問項目なのかが少し分かりにくかったです。12 番からはランチルームのほうも、ランチボックスのほうも両方に対してなのでしょうか。このあたりがわかりにくいかもしれません。ここまでが、この人たちといったようなことがわかる大きな括り、大項目みたいなものを入れてもいいのかと思います。

あとは、この結果をどのようにまとめるかですが、スクールランチ以外の学校の結果があると、比較ができより考察がしやすいと考えます。例えば自校式やセンター式の給食を食べている子たちの食べ残しも含めて意見や考えなどが比較できるかと思います。もちろん同じ項目全部ができるわけではないのですが。

あとは保護者のほうの 10 番と 11 番が、聞いてもいいとは思いますが、この違いがあまりなく、特に 10 番を聞く必要はないのではないかと思います。以上、私が一度確認して気づいた点になります。

(村山座長)

ありがとうございます。まず、子ども向けのほうで、性別についてですけれども、これは質問に入れるのは難しいということなのでしょうか。

(事務局)

当初、検討する中で必要ない項目は基本的に聞かないようにと思って、分析に男性だからたくさん食べるとか、女性だからあまり食べないというような主観で見るのはどうかかなということで、一回外していますが、例えば「男性」、「女性」、「答えたくない」ですとか、そういう項目であれば追加もできるかとは思っています。

(村山座長)

ではご検討ください。

それから次なのですが、6 番と 7 番のところは注文する、しないを最初に入れて割り振る。それはできるような感じもしますけれども。

(事務局)

5 の (1) のところで、「今までにランチボックスを食べたことがありますか」のところで「いいえ」をつけると、それ以降はランチボックスに関する「注文する」のどこ

ろは答えられないようになっていますが、7の「注文しない理由」は、食べない方も答えられるようにしています。ただ、仕組み上、分岐が一回しかできないということになっておりまして、新潟市のアンケートフォームの仕組み上ですが、そこだけ分岐をしています。

(村山座長)

ということは、5番の(1)で「食べたことがある」と回答した人は、(2)からずっと答えていって、6も答えるということですね。

(事務局)

はい。7も答えてということになります。

(村山座長)

7も答えるのですか。

(事務局)

はい。

(村山座長)

食べるときと食べないときがあるから。

(事務局)

そうです。7について、先ほど赤松先生からいただいた「ランチボックスの日は、毎日ランチボックスを食べている」というのは確かに分かりづらいところだと思いますが、常に食べている方がいたときに、ここは答えにくいなと思って作った項目なので、ちょっと工夫して、常に食べている方もこの項目は答えられるようになってしまっているので、そのときに選択するものがないと迷うかなと思って入れたのですが、逆に分かりづらければ消して工夫をしたいと思います。

(村山座長)

そうですね。注文する人も7番を答えてしまうからですね。

(事務局)

そうなのです。

(村山座長)

山崎委員、お願いします。この件ですか。

(山崎委員)

はい。よくツイッターのアンケートのときにあるのですけれども、閲覧用とか、あとは「ランチボックスを注文していない人はここをチェックしてください」とか、それがあればいいのではないかなと。「ランチボックスの日は、毎日ランチボックスを食べている人はここをチェックしてください」みたいなものがあればいいかなと思います。

(村山座長)

同じ列で並んでいると分かりにくいのですよね。

(山崎委員)

そうです。答える項目になってしまっていると思いました。

(事務局)

ありがとうございます。

(村山座長)

では、ご検討ください。

(事務局)

工夫したいと思います。

(村山座長)

それから、次が 12 番以降をランチルーム形式とランチボックス形式、これは両方の人が答えるということですよ。

(事務局)

はい。全員にお答えいただこうと思っています。

(村山座長)

これは今、紙で見ているから分かりにくいけれども、全員に出てくるから全員が答えるということなのですよ。

(事務局)

そうです。

(村山座長)

最後に、スクールランチ以外の給食との比較なのですが、これは設計上、大幅になるので変更は難しいということですよ。ほかのところにも実施するというのはかなり大

きなことになってくるので、この辺は難しいのかなと思いましたが、いかがでしょうか。

まず対象者が違う人もやらなければいけないので、かなり厳しいのではないかと
思いますが。

(事務局)

大事なことだと思いますので、すぐというわけではございませんが、やる方向で検
討したいと思います。

(村山座長)

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。村井委員、お願いします。

(村井委員)

細かくて申し訳ないのですが、まず生徒向けの項目で、10番の「スクールランチの選
び方はどれが多いですか」というところなのですが、中の設問を呼んでいくと、「もの」
と「方(ほう)」と、どちらかというものが混在してしまっていて、例えば「栄養バランス
や体に必要なものを選んで選ぶ」と。「もの」というと食材なのかお弁当なのか、メニ
ューなのかということが、下のほうだと「おいしそうの方」になってしまっていて、これが
ちょっと分かりにくいと思いました。

その下の11番のところ、複数回答の一番最初に「インターネットから予約できる」、
「料金を銀行振り込みなどで払える」というのが「おかずの温度」とか「味つけ」の前
にきてしまっているのです。これはうしろでもいいのではないかと思います。

それから、保護者向けのほうなのですが、やはり10番「お子さんにスクールランチ
を食べない日に弁当を作っていますか」が「お子さんがスクールランチを食べない日に」
かなという感じです。

これはタブレットで聞くというふうにお聞きしたのですが、保護者の方には例えばよ
くアンケートにあるように、「ご意見等があればぜひご自由にお寄せください」みたい
な項目がいちばん最後についていると、アンケートの中で答えきれない部分について、
ぜひ言いたいという意見がもう少し集まるかなというふうに思いましたので、その辺は
どうかということです。

(村山座長)

ありがとうございます。私は先ほど赤松先生からの意見で、保護者のほうを飛ばして
しまったので、それも含めてこのあと確認したいと思います。

まず、子どものほうですけれども、質問番号が違いますか。

(事務局)

事前にお配りしたものと少し番号がずれています。差し替えが入っています。申し訳
ありません。

(村山座長)

9番ですね。回答肢の「もの」を選ぶとか少ない「方(ほう)」を選ぶとか、比較のものと混ざっているというお話しですが、これについて、事務局からお願いします。

(事務局)

統一します。

(村山座長)

9番は統一いただき、10番は「銀行振り込み」が一番下に来ているので、修正されているということでよいでしょうか。

(事務局)

はい、修正しました。ありがとうございます。

(村山座長)

あとは保護者のほうの新しい今手元にある調査票について、赤松先生のご意見の10番、11番がなくてもいいのではないかというご意見だったように思いますが、赤松先生、それでいいですか。

(赤松委員)

「積極的に用意したい」というのが、必要なのか、疑問に思います。

(村山座長)

保護者のほうの回答肢ですか。

(赤松委員)

「負担に感じますか」という11番は分かる気がするのですが。

(村山座長)

「用意したくない」とはちょっと回答しづらいよね。

(赤松委員)

そうです。「用意したくない」とかを選ぶか。かぶることを10番と11番は聞いていると思います。

(村山座長)

11番だけでいいのではないかという。

(赤松委員)

そうです。私の意見としては、11番だけでもいいのではないのかなと思ったのです。

(村山座長)

確かに。

(佐久間委員)

なくしてほしい。

(村山座長)

なくしてほしいと。佐久間委員からも10番は不要なのではないかというご意見になっています。

(佐久間委員)

用意したかったら、もう弁当にしているのではないかなと。

(村山座長)

あえて聞かなくても。それでは、村井委員からのものは「が」というのは直っていませんよね。ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。佐藤委員、お願いします。

(佐藤委員)

今の保護者向けのアンケート、うちにもこれが来るのだと思うとちょっと分量がとて多くて5分じゃ終わらないというような気がするのと、例えば3、5、6は、スクールランチに関係のないことを聞く必要があるのかなというのが気になりました。データとしては新潟市のほうで取っていて、あえてスクールランチの方に、この間いをする意味があるのかなというような印象を持ちました。

分量が多いというのは、事務局で考えられる想定のを全部出していただいたからだと思うのですが、それぞれの中で、これ以外の意見があれば記述ができるというような形なのでしょうか。例えば7番で注文する理由で、違うような意見が書けるような状態になっているのかどうか。「その他」で自由記述をしてもらうとか。この中で「食材の品質管理や衛生管理がされていて安心だから」と、この用語が分かる保護者はいるのかなと思いました。

(村山座長)

特に、「品質管理」はそうですね。ありがとうございます。

(佐藤委員)

そういうものも細かく見ていくと、いろいろあると思うので、事務局では本当に素晴らしく想定の回答を用意していただいたと思うのですけれども、逆にちょっと多すぎるというような印象を持ちました。

9番の、私はこれ本当に聞いてもらいたいと思っているのですけれども、例えばこれも「用意していない」場合、じゃあどうしているのか聞きたくなるのですけれども、いかがでしょうか。もし「用意していない」という方がいたら、じゃあ食べていないということなのか、買わせているのか、その辺りが聞けたら、先ほどの一番問題と感じているところの回答が聞きたいなと思いました。

(村山座長)

今のご意見にいきますが、保護者のほうの質問表で、全体のボリューム感の中で、特にここで聞かなくていいと思われるもの、3番、5番。6番は確かに子どものほうで聞いていますよね。なので、同じ質問があるので特に要らないかなというふうに私も思いましたが。

(山崎委員)

子どもが思うものと、親が思うものは違うのかなということなののでしょうか。

(村山座長)

私も突き合わせるのかなと思ったけれども、そこまでしなくてもいいのかなと思いますが。

(山崎委員)

アンケートの集計方法によると思うのですけれども、全部一気に集めて平均で取るのか、このアンケート内で、朝食を食べていない人はスクールランチを食べない日に弁当も用意しないとか相関を作るのであれば、これは必要だと思うのですが、集め方によると思うのですが、どうでしょうか。

(村山座長)

事務局からお願いします。

(事務局)

集計の方法ですが、単純集計をするだけではなくてクロス集計できるようにしたいと思っております、分析できるように属性を取るような項目というので入れているところもあります。

(村山座長)

それなので3番や5番は必要と。

(事務局)

3番と5番については、3、4、5で合わせて、実際お子さんがどういうものを食べていて、どういう栄養状態にあるかというのを推測するために入れていましたが、少し議論のあるところかなと思っています。

(村山座長)

朝、昼、夕全体を捉えるということですね。

(事務局)

はい、そういうことです。

(村山座長)

という意図だということでした。そして6番は。

(事務局)

6番は先ほどおっしゃっていただいたように、属性として好き嫌いが多い場合にランチを食べているかとか、親から見てどうかというところを捉えたいなと思って。

(村山座長)

親の中でクロスをするためにということですね。

(事務局)

そうです。保護者の方の結果とお子さんの結果で突合できないようにしてありますので。

(村山座長)

そうですね。突合はできないけれども、全体として親はこう認識しているけれども、子どもはこう認識している、はできるから入れたいということですね。

7番の用語はちょっと確認したほうがいいかもしれないですね。「品質管理」は分からないかもしれませんが。あとは各項目の中と全体もあるのですが、「その他」の自由記述を入れるか入れないか。

(事務局)

確かに「その他」は今、入れていないところも多いのですが、ある程度、こちらで出し切れたかなと思ったところは「その他」が入っていないかったりはしますが、ただ難し

いのは、「その他」があると回答時間が増えるかなとか、全部考えずに選択できたほうが早いかなどと思って検討中です。選択肢を減らして「その他」を入れることで全体を圧縮するという事はもちろん可能です。

(村山座長)

ありがとうございます。ただ、保護者のほうで「その他」が必要そうなところはそんなに多くなくて、恐らく7番、理由ですよ。理由のところだけ7番、8番くらいではないですか。12番は入っているので、7番、8番。あとは13番、この三つくらいかなと思いますので、ご検討いただければと思います。先ほど村井委員の最後に全体としての意見、これは生徒も保護者も入れてはどうかということですね。

(村井委員)

あってもいいのかなと思います。

(村山座長)

最後に書きたい人だけですけれども、「そのほかに全体としてご意見がある方は」という自由記述を入れるということについては、いかがですか。

(事務局)

そういたします。

(村山座長)

ご検討願います。

ほかに、お気づきの点がありましたらお願いします。大坪委員、お願いします。

(大坪委員)

今のお話で、最後に村井委員のおっしゃった自由記述は大賛成なのですが、その際に、自由記述の範囲をスクールランチについての自由記述なのか、それとも学校給食に望むというふうにしたほうがいいのか、どうでしょうか。せっかくの機会ですから生徒さん、それから保護者の方が学校給食にどんなことを望んでいらっしゃるのかというのを、ちょっと聞いてみたい気もします。ただ、事務局にご負担が増えてしまって申し訳ないかなと思うのですけれども。

(村山座長)

それについて、今回のこの質問はスクールランチ校だけなのですが、今後は比較のために他も実施するということでした。

(大坪委員)

これはスクールランチの学校だけが対象だから、全体にできないということですか。

(村山座長)

スクールランチ校では、給食に望むことというと、スクールランチの意見が出てくるのかなというふうに思います。

(大坪委員)

その辺ちょっと勿体ないなと思って、スクールランチに対する自由記述というのは私も大賛成なのですけれども、せっかくの機会ですから。

(村山座長)

給食全体に望むことを聞いてはどうかということですね。

(大坪委員)

給食全体に望むというようなことも。

(村山座長)

事務局よりお願いします。

(事務局)

おっしゃるとおりだと思います。今、スクールランチ校に在籍していたとしても、前のところはどうだったかといったような視点もあるかと思いますがし、友だちから聞いた話というところも重要かと思いますが、そのように幅広く聞いてみたいと思います。

(村山座長)

ありがとうございます。

(大坪委員)

ご負担を増やしてはいけないので、もしあればというような感じで聞いていただければと思いますが。

(村山座長)

そうですね。ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。いろいろな意見が出ましたけれども、事務局からこの辺りもうちょっとご意見ないかということがあればお願いします。大丈夫ですか。

(事務局)

全体のボリューム感、先ほど佐藤委員からおっしゃっていただいたように5分では終わらないというお話をいただいていたのですが、もし削っていくとしたら、どの辺りを削るかとかというご意見をいただけますか。

(村山座長)

特に保護者のほうですね、きっと。まず保護者のほうからご意見をいただきたい。佐久間委員、いかがでしょうか。

(佐久間委員)

保護者のほうは10番を削ってくれば、あとはほぼ5分で回答できるかなと思いますが、負担感は聞いたほうがいいと思います。本当にほかの家族のものも作っていて慣れているからという人と、子どもだけのために作る人というのは、やはり負担感が違うと思うので、負担感は聞いていいと思うのですが、用意したいかどうかはちょっと聞かれても困る内容かなと思います。

あとはやはり選択項目です。確かに項目が増えれば増えるほど丸はつけやすし、考えを記述しなくてもいいかなというところなのですが、思ってもいなかったけど、「ああそうか」みたいな感じで掘り出されてしまうというか、悪い意見が集結するリスクが高いというか、スクールランチイコール給食費というのは分かるのですが、「給食費が安いから」と書くよりは、「ランチ代が安いから」と書いたほうが分かりやすいのかなという気はしました。

(村山座長)

7番のところですか。

(佐久間委員)

7番、8番両方です。

(村山座長)

スクールランチが安いから。

(佐久間委員)

このままでも通じると思うのですが。

(村山座長)

先ほど私が漏らしてしまった9番のところ、佐久間委員からいただいたご意見で、追加ですね、少し掘り下げるというか、用意していない場合はどうするのかということを入れていただくという。お金を渡してということとか、食べないというのもちよっ

とどうかと。どうしたらいいでしょうか、佐藤委員。

(佐藤委員)

言っておいて難しいなというふうに感じているのですが。

(村山座長)

食べさせないというわけにもいかないし。

(佐藤委員)

聞ける範囲で、もし事務局で考えられることがあったら対応していただければと思います。

(村山座長)

全体のボリューム感について、ほかの委員からご意見は。村井委員、お願いします。

(村井委員)

保護者のお話を聞いていて、あっと思ったのですが、7番の「給食費が安いから」という、新潟市は全国平均で給食費の金額が全国6位で高いほうなのですよ。ですから、全体から見ると全国平均の1万2,000円くらい高いのですが、そうすると例えば転校で入ってきている方からすると、「安い」ということに対しては違和感を感じられると思うので、これはちょっとどうかなと思いました。

(村山座長)

項目としてはなくても。

(村井)

スクールランチは安いというのは事実なのです。給食に比べると安いというのは事実ということですよ。

(事務局)

中学校の給食は、今、私会計でやっております、各学校で給食費がバラバラになっています。スクールランチは牛乳合わせて350円ちょっとですが、だいたい平均くらいになっています。

(村山座長)

この「安い」というのは家で作るよりもという意味ですよ。

(事務局)

そうです。

(村井委員)

それを言ったのですね。

(事務局)

そういうことです。コンビニで買ったり家で作るより安いということで、そうですね、追加します。

(村山座長)

ほかに。保護者のほうのボリューム感は大丈夫そうだとということで、生徒についてはいかがですか。オブザーバーの栄養教諭の先生方からもコメントがあれば。あるいは校長先生からも、これで大丈夫か、ご意見いただければと思います。逸見先生、お願いします。

(逸見オブザーバー)

5番の(6)「おかずの量はどうか」というときに、それぞれ個別は難しいと思うのですが、好きなおかずは足りないし、好きではないものは多く感じますし、そういうときに子どもはどれを選択するかなと感じました。

(村山座長)

どう聞いたらいいか、何かアイデアはございますか。これはご飯に対しておかずが少ないんじゃないかと、私も一回食べたときにご飯がやたら多くて、おかずが。

(逸見オブザーバー)

「1食分の食事としてのおかずの量は」。なんか長いですね。「ちょうどいいですか」というくらいかなと思います。

(村山座長)

1食の中でおかずの量はちょうどいいか。

(逸見オブザーバー)

「ご飯に合ったおかずの量ですか」とか何か。

(佐久間委員)

中学生がそこまで考えるかなと感じます。

(村山座長)

佐久間委員、お願いします。どう聞いたらいいか。

(佐久間委員)

中学生がそこまで考えるかなというので、本当にただ丸をつけていく感じで、ああご飯の量は少ないか、おかずの量は多いかみたいな感覚でつけると思うので、あんまり細かく書くと読み解く時間がすごく大変で、面倒くさい、みたいな感じになると思うので、これでいいかと思います。

(村山座長)

ありがとうございます。全体の質問量は大丈夫そうでしょうか。

それでは、今、事務局からご意見を伺いたいということについては、だいたいこのボリュームでも大丈夫そうだったということでした。

ほかにはいかがでしょうか。村井委員、お願いします。

(村井委員)

スクールランチ自体のというよりは、スクールランチを食べることに対して、楽しいかどうかということがあってもいいのかなという、給食の楽しさみたいなものが答えにあるといいかなというのを一つ思っています。

(村山座長)

ありがとうございます。先ほど佐久間委員からもあった、「楽しみにしているか」というような聞き方で1問入れたらどうかということですね。佐久間委員から。

(佐久間委員)

生徒向けのもので、大人のほうにもあったのですけれども、ランチボックスを注文する理由とか、食材の品質管理、栄養管理がされていて安心だからというのと、地元食材が使われているからというのは、子どものアンケートからは要らないのかなと思います。なぜならランチボックスは業者さんに任せているから何を使っているか分からないと、先ほど事務局の方もおっしゃっていたので、これは子どもたちも知らないんじゃないかと思うのですが、とにかく項目が多すぎて、多分、読むのがもう面倒くさいみたいな感じになってしまうのではないのでしょうか。私の感覚ですが。

(村山座長)

では、理由の選択肢を少し少なくして、「その他」を入れるということで対応したほうがいいですね。ありそうなものを残すだけにします。ありがとうございます。7番もそうでしょうか。でも7番は意外と全部あるかもしれません。6番についてということですね。

ほかに、いかがでしょうか。今、事務局から手が挙がったような。その前の段階で。お願いします。

(事務局)

ご指摘ありがとうございました。「楽しい」ですとか、そのほかご指摘いただいたことを反映していきたいと思います。

(村山座長)

ありがとうございます。では、項目の整理もお願いいたします。

いろいろなご意見いただいて、所定の時間があと2分くらいになってしまっております。最後に、遠方から赤松委員さんご参加いただき、ありがとうございます。最後に何かおっしゃりたいことがあれば、どうぞ。また来週でも大丈夫です。

(赤松委員)

来週伺いますので、スクールランチをいただくのを楽しみにしています。

(村山座長)

ありがとうございます。

それでは、事務局として今回のご意見を修正して、早速来週、アンケートを実施いただくということになりますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

ということで、これで予定していた議事はすべて終了いたしましたので、進行を司会にお返ししたいと思います。皆様、円滑な議事進行にご協力いただくとともに、多数の有益なご意見ありがとうございました。それでは事務局にお返しします。

(司 会)

はい、村山座長ありがとうございました。それでは最後に袖山課長よりご挨拶申し上げます。

(袖山課長)

熱心に議論いただきまして、本当にありがとうございます。今ほどご意見いただきましたように、学校給食を取り巻く環境の変化の中で、様々な課題も私共も認識しておりますし、今の皆様からの意見の中で私共も気づくことがあったものもあります。学校給食は毎日のもので、本当に多くの市民からも注目をいただいているところでございます。いろんな意見をいただきながら、安心安全はもちろんのこと、子どもたちの健やかな成長のために良い給食にするにはどうしたらいいかということを見出していきたいと思っております。

次回はスクールランチを食べていただくなど、今後の見直しに向けた各論ということで入っていただきますので、また活発な議論をお願いしたいと思います。本日はありがとうございました。

(司 会)

それでは本会議は終了となります。ありがとうございました。